

みんなで 護る文化財

VOL.24

文化財保護委員

坂梨地区の文化財

副委員長 嘉悦 渉



坂梨の町並み

・坂梨の町並み
坂梨地区では地域住民による「さかなし宿場會」が結成され、歴史風情の漂う宿場町の再現に取り組まれています。

熊本城内の西方に清爽園と呼ぶ小公園があり、この小公園に「里程元標跡」の碑が建てられています。ここは札の辻といい、「豊前街道」「豊後街道」「日向街道」「薩摩街道」の江戸時代の中心的な4つの街道の起点だったところになります。なかでも豊後街道は、熊本から大津・阿蘇・久住を経て、豊後の鶴崎に至る最短ルートとして参勤交代にも使用されています。

今回は、その豊後街道の宿場町として、当時の面影を最も残しているといわれる坂梨地区の文化財を紹介します。

坂梨は豊後と肥後の国境近くであり、古くから交通の要衝として栄えた町で、多くの文化財を今に伝えています。

天神橋（市指定建造物）

石橋という種山石工が造った通潤橋（山都町）や、霊台橋（美里町）が有名ですが、坂梨にもこの種山石工による石橋があります。



天神橋

坂梨を通る旧国道57号（豊後街道）を南北に横切る平保木川に架けられた橋で、表面上はアスファルトやコンクリートで覆われていますが、橋の下を見ればりっぱなアーチの石橋であることがわかります。

実はこの橋には名前がありませんでした。昭和52年に旧一の宮町の文化財に指定される時、すぐそばにある天神社にちなんで「天神橋」と名づけられました。この天神橋は、橋の下底の長さは64メートル、幅43メートル、アーチの中央部の高さは21メートルで、約1000個の滝室坂産の阿蘇熔結凝灰岩を使って見事なアーチをえがいています。

橋の東側の欄干には、弘化4年（1847年）の年号と八代郡種山手永（現八代市東陽町）の棟梁、石工卯助の銘が刻まれています。

完成までに足かけ3年は要したと伝えられており、卯助は、架橋工事が大詰めを迎え、最後の一石である要石を頂点にはめ込むときに紋服姿で威儀を正し、その真下に正座して命をかけたといわれています。

通常、橋には架橋者の氏名などは刻されないものですが、地元の人々が卯助に敬意を表して記したものでしょう。



< 現況届提出時に必要な添付書類 >

- ・ 受給者（父もしくは母）の健康保険証の写し

（受給者が厚生年金等加入者である場合に提出）

- ・ 前住所地の市区町村長が発行する平成 20 年度児童手当用所得証明書

（阿蘇市に平成 20 年 1 月 1 日に住所がなかった場合に提出）

- ・ 監護・生計同一申立書及び住民票

（世帯全員）

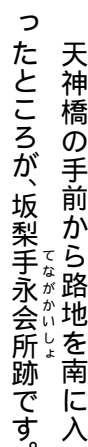
（子供と別居している場合に提出）

支給対象者	小学校修了前の児童を 養育している者
支給額	<0歳以上 3歳未満の児童> 月額 10,000円 <3歳以上の児童> 第1・2子 月額 5,000円 第3子以降 月額 10,000円
支払時期	毎年2・6・10月に、それぞれの 前月分までが支払われます。
制限	所得制限があります。

平成2年7月2日の大水害にもビクともしなかった石橋ですが近年、アーチの基礎を構成する^{わいし}輪石部分の欠落や水の流出が見られることから、大切に保存する必要があります。

ちなみに、卯助の最後の事業は日本一のアーチをもつ^{れいたいきう}霊台橋で、国の重要文化財に指定されています。また、卯助の弟、丈八は通潤橋^{みょうじゅうたいとう}の架橋後、肥後藩より苗字帯刀を^{はしもとをかたてのり}許され、橋本勘五郎と名を改めています。勘五郎は、首都整備を急ぐ明治政府に招かれて宮内省土木寮勤めとなります。明治6年(1879年)に万世橋、翌年に浅草橋と蓬萊橋、^{まいせいはし}そしてさらに翌年に江戸橋と京橋

坂梨手永会所跡（市指定史跡）



江戸時代の阿蘇は、坂梨・内牧・

久住・布田・高森・野尻・菅尾・北里・馬場の9つ手永の下に⁸⁴の村に分れていました。郡役所は内牧にあり藩の役人である郡代が郡を総括していました。その郡代の下に惣庄屋そうしやうゐが置かれ、各村々のまとめ役として庄屋が構成されてきました。

会所は惣庄屋そうじやうやの役宅であるとともに、会所役人が詰めて勤務する役場になります。

さて、坂梨手永は12村(坂梨・北
坂梨・野中・三ヶ村・手野・尾籠・下原・

中原・井手・宮地・塩塚（四分一）を管轄し、会所は坂梨に置かれました。惣庄屋そうじょうやには加藤氏時代からの大庄屋であつた坂梨家（市原家）が代々勤めてきました。

宝暦3年(1753年)には世襲ほうれきしていた惣庄屋職が交代制となり市原家の敷地内にあった会所が独立してこの地に建てられたと考えられています。

明治維新以後に会所は廃止され
坂梨会所の建物は寺子屋・塾・小学
校として使われていましたが、現
在は古井戸を残すだけになってお
り、古井戸の横には、坂梨校発祥址はつしょうしの
石碑が建てられています。